<h1>議 事 録</h1>		作 成 日	令和6年10月30日(水)
		作 成 者	建設部 上下水道課
会議名	第1回 宮津市水道使用料金等審議会		
開催日時	令和6年10月30日(水) 14:00~15:45	開催場所	宮津市防災拠点施設
出席委員 (敬称略)	味見 豊 : 宮津市自治連合協議会 副会長 黒岡 芳子 : 宮津市地域女性の会 会長 井崎 智満 : 宮津地区労働者福祉協議会 会長 山口 孝幸 : 宮津商工会議所 専務理事 岡本 昌広 : 宮津天橋立観光旅館協同組合 (同組合理事 森口正志氏 代理) 三好 ゆう : 福知山公立大学 准教授 山崎 慎一 : 舞鶴工業高等専門学校 教授		

内 容
<p>1 挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・城崎宮津市長より開会にあたっての挨拶 <p>2 委員紹介 (資料1「委員名簿」)</p> <p>3 宮津市水道使用料金等審議会について (資料2「宮津市水道使用料金等審議会の設置について」及び資料3「宮津市水道使用料金等審議会設置要綱」)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より当審議会の概要及び今後の予定について説明 ・審議会の開催回数は計3回を予定 ・審議会は公開とし、議事録等を後日公開とする。 <p>4 会長及び副会長の選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長として、山崎慎一氏 (舞鶴工業高等専門学校 教授) を選出 ・副会長として、味見豊氏 (宮津市自治連合協議会 副会長) を選出 <p>5 水道使用料金等のあり方についての諮問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長より、水道使用料金等のあり方について諮問 (資料「水道使用料金等のあり方について (諮問)」) <p><諮問概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年8月設置の「宮津市水道使用料金等審議会」の答申を踏まえ、令和2年10月に料金改定を実施するとともに経費削減等に努めたことにより、料金改定年度から令和5年度まで黒字で推移 ・しかし、給水人口の減少や物価高騰等の社会情勢の変化が続くとともに、施設の耐震化や老朽化施設等の更新需要への対応など、現状においてもなお、非常に厳しい状況にあること、また、当時の答申において「大きく変化する社会経済情勢等に鑑み、健全な事業経営に資するよう、適時経営状況の分析を行い、概ね5年ごとに水道使用料金の見直しに係る審議を行うことを望む」との付帯意見もいただいたところ ・今後も水道事業の健全な経営を図り「安全でおいしい水をいつまでも」安定的に供給するため、水道使用料金等のあり方について、貴審議会に諮問するもの

内 容

6 水道事業の現況について

- ・事務局より資料 4「宮津市水道事業ビジョン」を中心に説明（資料 4「水道事業ビジョン」、資料 5「経営比較分析表」、資料 6「官公庁会計と公営企業会計の違い」、資料 7「水道事業ビジョンと決算の比較」）

<質疑>

- ・令和 2 年から令和 5 年までコロナ禍により観光事業者など大変厳しい状況の中、水道事業ビジョン（以下「ビジョン」）より有収水量が上回っている理由は何か。
→コロナ禍においては一般家庭や福祉施設、マンションの利用が伸びていた。（事務局）
- ・人件費については、人事院勧告等によりこれまで以上に上がっていくと考えているがどうか。
→人件費については、今後、上昇していくものと考えている。ビジョンにおいて、人件費は同じ水準で計上しているが、第 2 回の審議会では、人件費の上昇や物価高騰を加味したシミュレーションを提示したい。（事務局）
- ・施設について法定耐用年数ベースで年間 9.9 億円の更新需要とのことだが、9.9 億円の中身は。
→施設に係る更新費用を 50 年で割った場合に 9.9 億円の費用がかかると試算したもの。浄水場の統廃合や施設の長寿命化をできるだけ行い、できるだけ更新費用を下げた結果 4.3 億円まで削減できると試算しているもの。（事務局）
- ・年間平均 4.3 億円の更新費用がかかるとのことだが、令和 2 年度から令和 5 年度の決算はどうだったのか。
→（資料 7「建設改良費」）令和 4 年度以外は 4.3 億円を下回っており平均でも 4.3 億円以下を維持している。コロナ禍により令和 2, 3 年度の部材調達ができなかったため、部材調達できた令和 4 年度が増えているもの。能登半島地震では本管や家庭への引込管が破損した。今後は施設の強靱化に向けた取組も進めていく必要がある。
→水道料金の使用量を基に算定している。（事務局）
- ・国が定めた耐用年数は大事だと考える。耐用年数を超えて使用できるかもしれないが、地震等が起きている中、費用がかかっても、しっかりとした強靱化をする必要があると考える
→安定的に水を供給するため、選択と集中の観点においてもしっかり取り組んでいきたい。（事務局）
- ・「安全でおいしい水」を理念としているが、おいしい水を作るのにコストをかけて何か工夫をしているのか。
→安全面にはコストはかけているが、おいしい水にするためのコストはかかっていない。自然豊かな宮津のもともとの水がおいしいと思っている。（事務局）
- ・地下水を利用している浄水場はどこか。
→由良地区と府中地区の一部。（事務局）
- ・財政シミュレーションでは供給単価が令和 7 年度以降 285 円/m³上昇していくこととなっているが全国的に見てどうなのか。25 箇所の浄水場を運営していくにはどうしても費用がかかる。
→人口密度と施設の数に相関していると考え。施設を集約しながらコストを抑えて運営していく必要がある。（事務局）

内 容

- ・資本的支出の企業償還金が予定より大きく、留保金が少しずつ増えている。30年後（ビジョン P82 で）2047年に大きな施設の更新があるため、留保金を増やしていく必要がある。料金改定は5年間の短期スパンで考えるが、超長期的スパンも視野に入れて検討する必要がある。
- ・浄水場ごとの給水単価は算定できないのか。
→共通の費用もあるので浄水場ごとの算定は困難と考える。（事務局）
- ・緊急連絡管（須津～与謝野町石川）を今年度整備予定とのことだが、国分～男山間、須津～橋立中学校間はどうなのか。
→与謝野町と緊急連絡管の整備に係る覚書は締結しており、計画はあるが、まずは須津～石川間の整備を行っていく（事務局）

7 その他

- ・次回の審議会は、11月26日午後開催予定